

『本願寺 別府別院』

全国の別院シリーズ その31

別府別院は第22世ご門主鏡如上人ゆかりの別院でもあります。

別府別院の沿革は比較的新しく、説教所の設立にはじまります。大分教区はもともと、南豊教区（豊後）と北豊教区（豊前の一部）が合一されたもので、明治30年代後半、南豊教区には別院は存在せず、間借りの教務所（教区事務所）のみがありました。

北には宇佐の地に四日市別院がありましたが、地理的に県南からは参詣に非常に不便を感じていました。

そんな昭和6年頃、別府市は南豊教区の地理的中心地にあり、かつ国内でも有名な温泉地であったため、本願寺説教所設立の原案が当時の有力者の手によってなされ、時あたかも勝如上人（大谷光照前ご門主）伝灯奉告法要の記念事業として建設することとなりました。

設立当時、説教所には門徒といえるものは一戸もなく、門徒に募財をしての建設ができない状態であったため、大変な苦労があったといいます。そのためか本堂は、大分県立鶴崎工業高校の生徒の教科実習として建築されました。記録によると、竣工式は昭和7年7月3日とされています。

その後、昭和18年に本願寺別府教堂と改称、昭和19年4月に一県一教区で大分教区となりました。別府別院と改称されたのは昭和24年5月2日のことで、昭和23年10月5日、病気療養のため別府鉄輪の地におられた第22代ご門主大谷光瑞（鏡如）上人がご往生され、現本堂にて仮葬儀（おそらく通夜）がいとなまれたことが由縁となっております。

そのため、当別院は鏡如上人のご分骨を納骨所にご安置し、上人のご遺品、ご遺墨等を陳列する大谷記念館が併設されています。



*送迎マイクロバスを運行します。
*お接待当番 中郷地区

講師 登世岡 浩雄師（広島市東区牛田 家業等）

「報恩講」（善教寺本堂）

十一月 二日（日）朝席：午前十時～

昼席：午後一時半～

*毎月十六日に本堂において勤めております。
十一月 十六日（金）午後一時半～

「宗祖聖人月忌・

門信徒祥月命日法要」（善教寺本堂）

講師 広幡 康祐師（吳市安浦町 信楽寺）
*送迎マイクロバスを運行します。

十月 二十七日（土）朝席：午前十時～

昼席：午後一時半～

「護持会報恩講」（善教寺本堂）

